

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19 年 8 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	3470105093
法人名	医療法人 和同会
事業所名	グループホーム 元宇品
所在地	広島市南区元宇品町26-20 (電話) 082-255-1239
評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成19年8月28日

【情報提供票より】(平成19年8月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 8 月 18 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 0.6	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 2 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,500 円		

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	10 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低 70 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	広島シーサイド病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム元宇品は市内南端の海と山に囲まれた好立地に位置し医療法人シーサイド病院に併設されたホームです。併設病院のバックアップで体調管理の安心安全を基に、看護師経験を持つ熱意のあるホーム長を中心に「1人ひとりを大切に」を理念にして穏やかな介護支援が保たれている。職員は入居者に担当制で親しみを持って接し、終日笑顔で穏やかな雰囲気を感じたことを特記したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 理念を職員全員で共有していることはホームの雰囲気ですぐに汲み取ることが出来たが、今後は全員で唱和する時間を持つとのホーム長の意向であった。 家族が書く面会票の意見記入欄の意見がカルテに綴じ込みされることで職員全員で共有され支援の改善に役立っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の議題が行事計画のみに限ることなく地域への参加交流の問題などに就いても幅広く話し合われることを期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 4ヶ月に1回の「お便り」のほかに1ヶ月に1回以上は家族への連絡電話をホーム長が行い細部に就いての意見交換を行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームとして町内会に加入し、地域の情報をより多く受け入れ、ホームが出来ることには進んで参加されたいとの意向が述べられた。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2ヶ月に1回の運営推進会議には家族会員の出席も7～8人ありその他の地域の会員も殆んど出席され主に行事の議題が検討されている。	○	行事予定のみの議題に留まらず日常的な地域との交流の話題等、多様性が望まれる。ホームとして町内会の会員となり地域情報のより多くの受け入れが出来ることが望まれる。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当初からの職員と新しい職員との理念の習熟の差が見受けられた。	○	日々唱和することの大切さをホーム長や職員が再認識され、今後一層の理念の共有が期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	プリンスホテルでの地域交流会に入居者の数名が参加することが出来、喜ばれた。	○	入居者が参加できる交流の場をより多く開拓されることが望めます。
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価による改善点の実行(物干し場への出口の手摺り)も見られ、ホーム長職員は評価の結果を前向きにとらえ熱心に取り組まれている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議録を基に行事計画が作られて居るが、サービスの向上に就いての意見交換の記録が少なかった。	○	運営推進会議での議題に多様性を盛り込み多くの意見の汲み取りが望まれる。

グループホーム元字品

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組みは不十分であると説明があった。	○	例として、地域の小中学校等への働きかけ等を行い、市との連携の窓口を作ることが話し合われた。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回のお便り、家族の訪問時、1ヶ月に1回は必ずホーム長が電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に必ず手渡す面会票(各人1枚)に意見の記入欄があり、毎度気軽に書かれている。面会票は各人のカルテに綴じ込み職員で共有し改善の実施に役立っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム長は法人内の異動で4月からの新任であるが以前より兼務でグループホームに参加され馴染まれており、開設当初の職員と協力体制がよく取れ、ダメージは無いと説明された。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症関係の内外の研修には職員全員がチャンスがあるように担当時間の交替をする等の便宜を図っても参加を重視している。		職員より学びの便宜を図ってもらえるとの発言があった。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内でのホーム長間では交流することはあるが、職員の交流は法人全職員の交流会のみで、グループホーム間での相互訪問などは行われていない。	○	同じ法人内のグループホームの職員間の交流からスタートさせたいとの職員よりの希望が述べられた。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と話し合いを行いつつ生活を進めていると説明があった。家族の訪問者は多数である状況である。		
で					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に行う掃除、料理、食器洗い、針仕事、時にはケーキ作りなど、入居者が残存能力を持たれて居るので教わる事もあり、声掛けして共に楽しんでいる。		クリスマスケーキも入居者と一緒に手づくりがされる。本日も食器の片付けを笑顔でされる入居者を見受けた。
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	室内での徘徊、部屋での閉じこもり等には職員が一緒に寄り添って時間を共にし落ち着いてもらう。		膝の痛みを訴える入居者の加療をホーム長はPTに相談しつつゆっくりと関り、快方に向かわせている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活で入居者に対しての担当職員が決められ、家族 担当職員 NS PT OT が参加している介護計画書が作成されている。		職員は担当の入居者の介護計画に変更が生じた時は、計画書のコピーをコメントを付けて申し送りノートに添付し、職員全員に共有されるよう配慮がされている。支援の共有の方法として特記したい。
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス計画の見直しの到来者は事務室掲示板に記され、サービス提供者のみならず他の職員にも共有され担当者の自覚にも役立っている。		実情を把握した担当職員の意見も充分にとりいれられた計画書の作成がされる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設病院との連携は密に保たれ各人のカルテ綴り背部には担当Dr. の記名がされて相談しやすい表示となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆んどの入居者のかかりつけ医はシーサイド病院であり各人の症状に合わせた受診間隔や必要に応じて外来へ職員が同行し診察を受け投薬がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期は家族との相談の上シーサイド病院へ連絡され医療に引き継がれる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム長、職員は一人ひとりの経歴や個人的な習慣を共有し、丁寧な言葉で対応がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が音楽的な雰囲気を好んでいることをホーム長は把握しており、タンバリンやカスタネットを最近購入し楽しんでもらうことを始めた。		是非楽しい合奏が出来上がることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の方2～3名が食事の準備や後片付けを楽しそうにされていた。体調が優れず居室で食事を摂られた入居者の下膳のお世話の光景も見られた。		女性の方のキッチンへの愛着の気持ちが十分に生かされて過されている。
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	広めの洗い場の備わった清潔な浴室です。入浴は週3回と決められている為その間隔の中での選択となる、多数の方は大変楽しみにされ声かけて喜ばれる。	○	職員の人員配置なども考慮し自由な時間の入浴サービスが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花見や夏祭りへの参加で楽しんでいる記録写真があり、又、ぬりえや習字などで楽しまれた利用者の作品がリビングに掲示がされている。	○	家族よりボランティア等に依る芸能の催しやホームの楽しみの行事を増やして欲しいとの要望があった。
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に頻度は多くないが近所の大型スーパーへ車で出かける支援をしている。衣替えの時期に衣類の買い物を個別に支援し、大変喜ばれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階エレベーター前の玄関は2ユニット別々にドアは開放されている。一方ビル一階部分の入り口は併設病院の1部と共用で部外者の出入りも多く、安全の為施錠されている、立地上やむを得ないと認められる。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	病院施設との合同には対策をとられていると説明がされたがグループホームとしての独自の対策がとられていない。	○	災害時のグループホームとしての独自の災害対策や職員の認識の向上が早期に必要とされる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎に食事の摂取量は記録され、定時にお茶やコーヒー等を提供しつつ、ボカリスエットを各自冷蔵庫に保有し随時吞んでもらい其の消費の量を把握するようにしている。		
ボ飯					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースのリビングや廊下には職員と合作による季節感を現した色紙や色紙細工が色鮮やかに飾られている。食事の後の時間を側面にあるソファでゆったりと過ごされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使われていたタンスや椅子が持ち込まれている居室もあり、自分で作った飾り物や絵などで自室を演出されている入居者もおられた。		